

第 41 期第 1 回支部長会議懇談「ウィズ／ポスト・コロナ時代の大会のあり方について」について（メモ）

小泉 耕

理事会等での検討の材料として、支部長の意見が求められたものであり、まとまった結論が得られたわけではない。

主な意見等は以下の通り。

- 「ウィズ/ポスト・コロナ時代の大会のあり方検討 WG」での検討状況についての報告があった。
 - 大会の開催方法について、現地開催とオンラインの双方のメリット・デメリットを検討し、まずは 2021 年秋季大会の開催方法について 5 月ことを目処に結論を得る予定
 - 参加のしやすさの点ではオンラインにメリットがあるが、現地開催には新しい出会いの機会となるなどのメリットがある。その一方で、両者を併用するハイブリッドは、運営のコストが高くなる。
- コロナ後もオンライン開催を（一部に）取り入れていくとすれば、現地の大会実行委員会と本部事務局の役割を適切に切り分ける必要がある。
- 完全オンラインなら現地の役割はなくなるので、現在 5 年に一度の頻度で回ってくる地方大会について、その頻度を変更する（間遠にする）ことも検討の余地がある、という発言があった。
 - 地方大会の開催頻度について支部長からは、頻度が増すことは受け入れられないが、頻度が減ったからといって負担が減るわけではない（一回当たりの労力は同じ。経験の継承という点ではあまり間隔が空くことも好ましくない）という意見があった。
- 地方大会開催における現地実行委員会の負担に関して、（これまで労働力の供給源であった）気象台の職員が最近では学会に入らない傾向があることが指摘された。
 - 気象庁職員の学会参加については別途検討する必要があるそう。
 - 支部ごとに事情は異なるが、現地実行委員会については大学等からの貢献がもっとできるはず、という指摘があった。

以上